

事 項	りんごわい性台木 JM1、JM7及び JM8利用樹の5年生時点でのわい化度		
ね ら い	JM1、JM7及びJM8台は、M.9EMLA台と同程度のわい化度を有し、挿し木繁殖も可能とされているため、生産者の注目を集めている。これらの台木を利用したりりんご樹の本県における生育特性についてはまだ不明な点が多いが、すでに苗木が市販され始め、実際栽培に導入される可能性が高い。そこで、試験樹はまだ5年生と若いですが、これまでに得られたわい化度等についての知見を参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>平成6年11月、沖積土壤に1年生のJM1、JM7及びJM8台の「ふじ」、JM1及びJM7台の「つがる」を4.5m×3.0mで栽植し、M.9EMLA台と比較した。</p> <p>1 木の大きさを幹周、樹高、樹幅から総合的に判断すると、「ふじ」では、JM1はM.9EMLAよりやや小さく、JM8はM.9EMLAと同等、JM7はM.9EMLAより大きかった。「つがる」では、JM1はM.9EMLAと同等、JM7はM.9EMLAと同等～やや大きかった。</p> <p>2 1樹当たり収量は、「ふじ」では、JM1とJM8はM.9EMLAと同等で、JM7はM.9EMLAよりやや多かった。「つがる」では、JM1はM.9EMLAと同等で、JM7はM.9EMLAよりやや多かった。また、生産効率（累積収量／幹断面積）はいずれの台木、品種ともM.9EMLAとほぼ同等であった。</p> <p>3 以上のことから、JM1とJM8はM.9EMLAとおおむね同等のわい化度であり、M.9EMLAと同じ栽植距離でよいが、JM7はM.9EMLAよりわい化度が弱いとみられ、M.9EMLAより広い栽植距離が必要である。 なお、M.9EMLAのわい化度はM.26と比較して同等～やや強い。</p>		
期待される効果	適正な距離で栽植できる。		
利用上の注意事項	現時点におけるJM系台木の利用は試作程度の規模に留める。 ここに示したのは5年生までの結果であることに十分留意する。		
担 当	青森県りんご試験場 栽培部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等			

【根拠となった主要な試験結果】

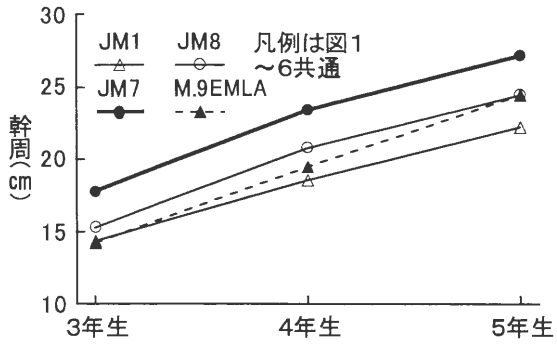


図1 ふじの幹周 (平成11年 青森りんご試)

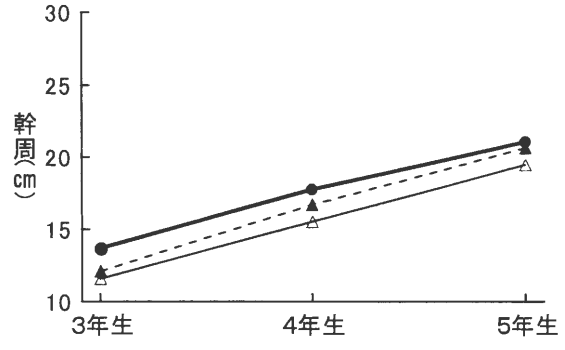


図2 つがるの幹周 (平成11年 青森りんご試)

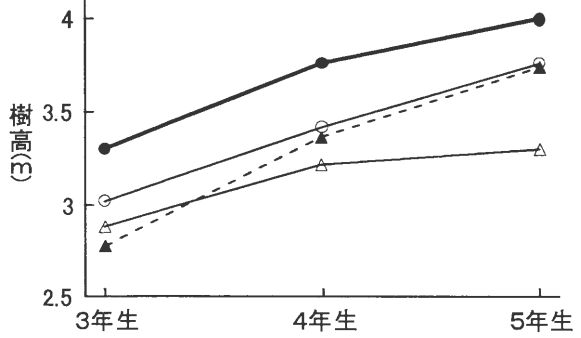


図3 ふじの樹高 (平成11年 青森りんご試)

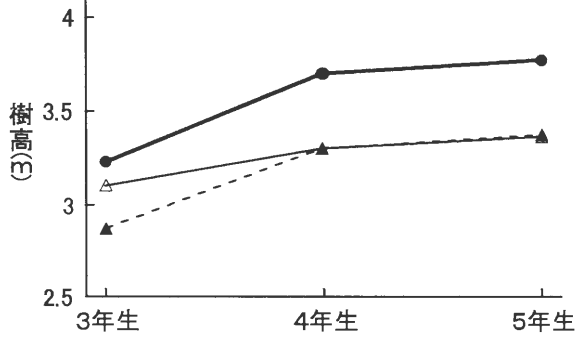


図4 つがるの樹高 (平成11年 青森りんご試)

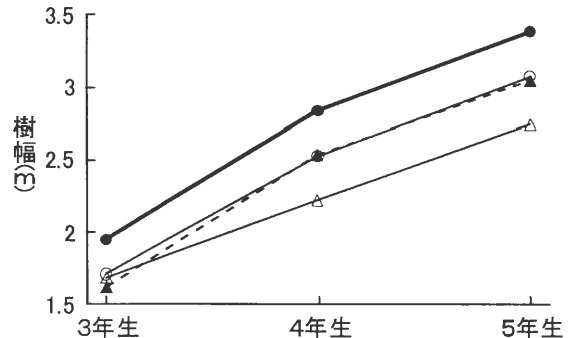


図5 ふじの樹幅 (平成11年 青森りんご試)

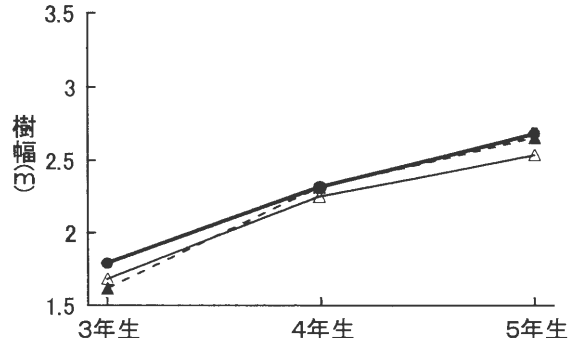


図6 つがるの樹幅 (平成11年 青森りんご試)

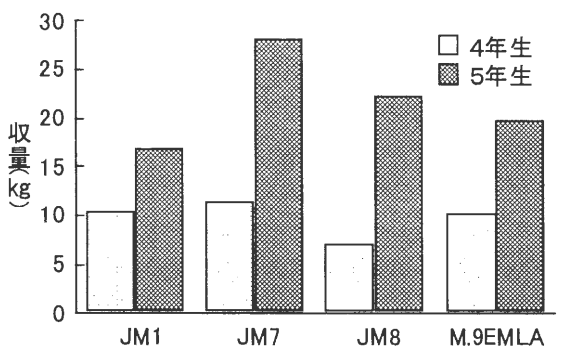


図7 ふじの1樹当たり収量 (平成11年 青森りんご試)

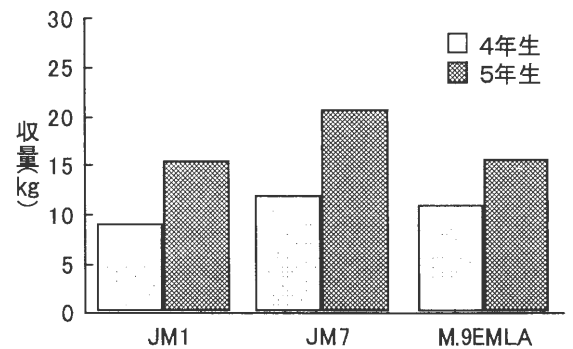


図8 つがるの1樹当たり収量 (平成11年 青森りんご試)

表1 JM台木の生産効率 (平成11年 青森りんご試)

	JM1	JM7	JM8	M.9EMLA
ふじ	0.71	0.66	0.61	0.64
つがる	0.82	0.88	—	0.77

注) 生産効率：累積収量／幹断面積 (kg/cm<sup>2</sup>)